

タイ経済指標斜め読み

(2025 年 5 月版)

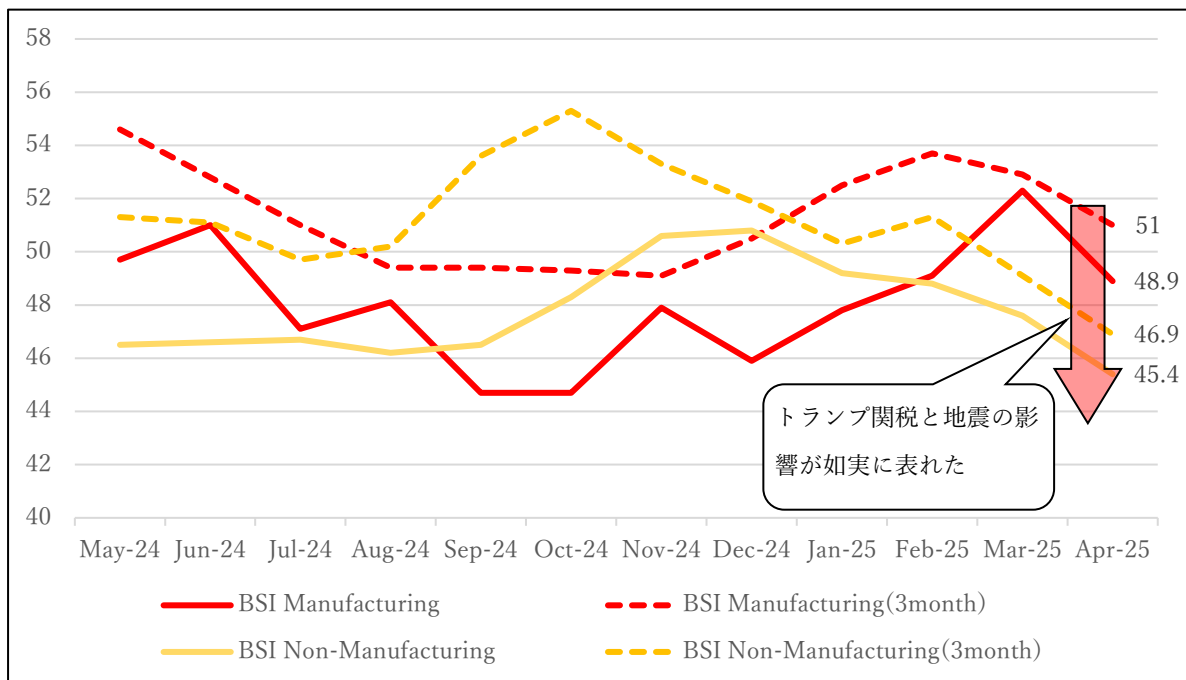
ビジネスサポート部

加藤義人

kato@mat.co.th

■No. 1 ■【経済指数データ】ビジネス景況感指数（BSI）

タイ中央銀行（BOT）は、4月のビジネス景況感指数（BSI：製造業、非製造業）を発表した。（指数：50＝前月と変わらず）



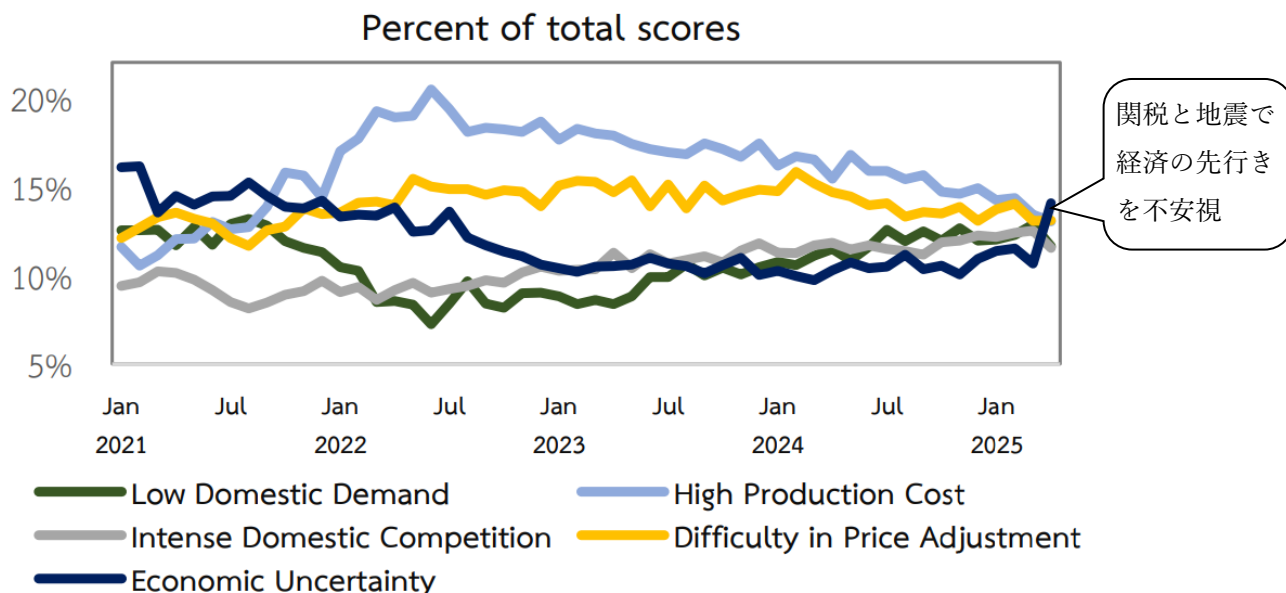
4月のBSIは、製造業が48.9、同三か月後の期待値は51、非製造業は45.4、同三か月後の期待値は46.9となった。共に前月から改悪となった。製造業に関しては、トランプ関税の影響が大きく、主に輸出関連企業が嫌気した。この指数に関しては、90日の猶予期間が発表される前に回答を行った企業も含まれている。次に非製造業に関しては、地震の影響で海外からの旅客数減少を懸念したものと同影響から高層コンドミニアムの売れ行きが減退したものによる。また、ソンクラン休暇の人出が予想より下回ったことなどが影響した。

出所：<https://www.bot.or.th/>

■No. 2■【アンケート調査】経営上の障害に関するアンケート調査結果

タイ中央銀行（BOT）は、4月の経営上の障害に関するアンケート調査結果を発表した。

Top constraints for doing business

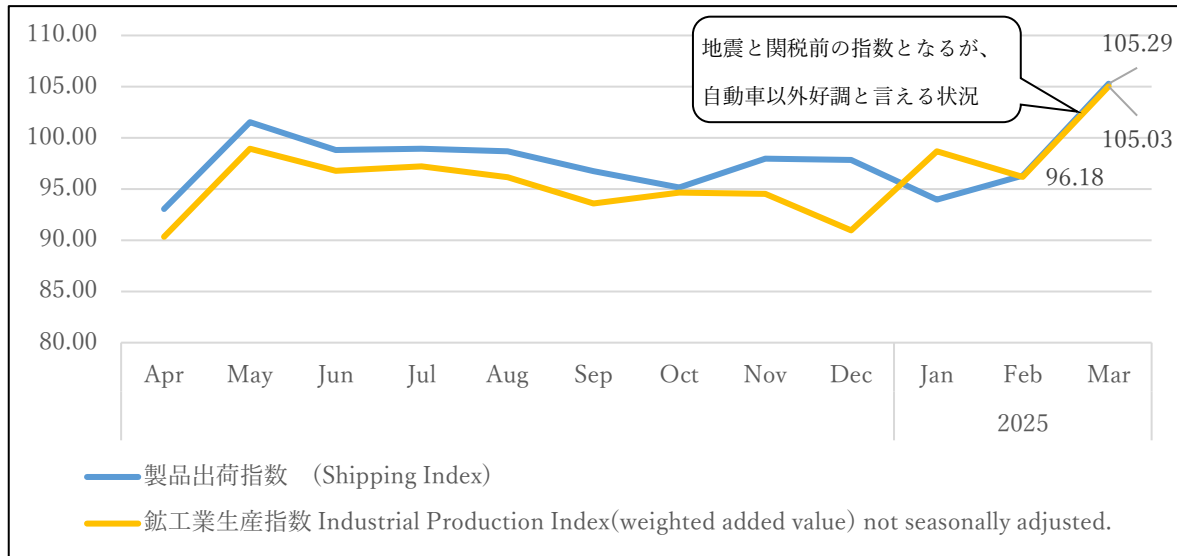


4月の調査結果でトップに浮上したのは、「経済の不安定」となった。他4項目を一気に抜き去った。トランプ関税の影響がタイ市場で如何にインパクトが大きかったかが見て取れる。次に「製造コスト高」、「価格調整の難しさ」、「国内需要の停滞」、「国内市場競争の激しさ」と続いた。この4項目は低下傾向に推移しており、トランプ関税の影響がなければ経済は上昇気流に乗っていたはずであったが、一気に水を差された形となった。とは言え、90日間の猶予期間の発表以前の回答もあり、実際はもう少しマイルドな形になっていると思われる。今後のタイ政府と米国政府との対話次第と言ったところだが、米中の課税合戦がひと段落したことを見ると、タイの状況は多少明るいのかと期待するところ。

出所：<https://www.bot.or.th/>

■No. 3■【経済指数データ】工業生産性指数と出荷指数

タイ工業省傘下工業経済事務局(OIE)は、3月の工業生産性指数（付加価値ベース、季節調整なし）と出荷指数を発表した。（2021年=100）



4月の各指数は、製品出荷指数が105.29、工業生産性指数が105.03となり、前月から共に改善、約9ポイント増加となった。しかし前年同月比ではマイナス成長となっている。工業生産性指数が前月から9ポイント増加の要因としては、PCや同部品、ゴム製品、エアコン製品、金細工などの生産が増加したこと、タイ政府の1万THBハンドアウト政策などが好走した。とは言え、自動車生産は前年同月比でマイナスであり、未だに長いトンネルを抜けられてはいない。最後に、この指数はトランプ関税の影響を受けていない指数ではあるが、90日間の猶予期間が発表された4月調査に於いては、引き続き生産と輸出は引き続き好調に推移すると思われる。

出所：<https://www.oie.go.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2025 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。